



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ  
WEEKLY REPORT

2009～2010 年度 高山中央 RC 会長テーマ 「 聞・思・修 」

◆会長 橋本 修 ◆幹事 岩垣津 亘 ◆会報委員長 長瀬 栄二郎 ◆会報担当 長瀬 栄二郎

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F  
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488  
◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600  
◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～  
◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 840 回	49 名	46 名	40 名	—	86.96%
前々回 838 回	49 名	46 名	41 名	3 名	95.65%

<点 鐘> 会長 橋本 修  
<ソング> それでこそロータリー

<本日のゲスト>

松井 弓夫 様

<会長の時間> 会長 橋本 修

本日は「定年」と「健康」という事について、少しふれたいと思います。

辞書を見ますと、昔は「停年」と書いたそうです。中身は、退官・退職する決まりになっている一定の年齢となっています。

昨年あたりから、公務員の友などより、挨拶状がきます。概ね内容は、心身の健康に留意し、これからの生き甲斐を探りたいとあります。

しかし還暦も過ぎたら、もう健康に留意する必要などないのではないのでしょうか。大いに酒を飲み、タバコを吸い、遊びまくって、そして仕舞っていけばいいのではないのでしょうか。

日本は経済成長を遂げ、長寿国家をつくるというのが社会的コンセンサスだったのです。それにより経済大国になり、世界一の長寿国家になったのです。

何の為の経済成長であり、長寿化なのでしょう。

今頃になって、少子高齢化などと問題にして、喫煙者は犯罪者の様に扱われています。市内でも、路上で吸うと罰金が取られます。

高齢者の交通事故が増え、認知症のドライバーという、新たな問題も出てきました。

メタボ対策であれ、ミニドックであれ、この頃は健康という二文字に振り廻されない様にと、方向転換をしています。定年後に、人生の目的を探すというのは、言葉の遊びにすぎません。

定年までに探せなかったものが、定年になり暇が出来たからと言って探せるわけではございません。

さて、我々多くの自営業の定年は、自分が決める事であ

り、後継者問題と自分の定年後というジレンマの中で色々悩むより、還暦を過ぎて少し解ってきた事は、俺はあと1年か2年しか生きられないのだと思う事によって、腹を決めれば、今のこの世を大いに楽しむという事でありです。100歳までの計画を立てている人もいますが、人生色々それぞれです。

最近特に多くなってきた診察券を手にし、本当の長寿とは何か…と問いながらも、うまい酒につい手が出ている昨今です。

<幹事報告>

幹事 岩垣津 亘

◎2009～2010 年度ガバナーより

- ・「ロータリーバンド演奏会」参加の礼状
- ・2010～2011 年度財団寄附に関する変更のお知らせ

◎2009～2010 年度地区大会実行委員会より

- ・地区大会記録誌

○可児ロータリークラブより

- ・クールビズ対応のお知らせ
- 6月から9月末まで(公式訪問等は例外)

○美濃加茂ロータリークラブより

- ・会報

<本日のプログラム>

新世代／青少年育成委員会

委員長

中田 学

皆さんこんにちは。

本日は新世代／青少年育成委員会の担当例会ということで、松井弓夫さんに講師にお迎えしております。松井さんは、昭和7年岐阜県高山市生まれ。岐阜大学学芸学部 生物地学科 卒業。

羽島高校柳津分校を皮切りに、主に美濃地方の高校で教鞭をとり、多治見高校長、大垣東高校長を歴任。

教員退職後の1994年春、加茂郡八百津町に不登校・ひきこもり・非行の子どもを受け入れる私塾「恕心館(じょしんかん)」を設立。

2007年春をもって閉館したが、13年間で延べ1,000名の子どもを受け入れ導いた。

では、宜しく願い致します。



## 松井 弓夫 様

私は、八百津の山の中に犬と一緒に十三年おりました、私はそこに長くいたいのですが、私達だけの人生ではないのでそろそろ帰る頃かと思いついて帰ってきたわけです。私の友達はその山の中に一人おりました、こんな山の中で病気になったらどうするのだと言うので、「死ぬまで生きる」と言うようにしています。

私は死んだ経験がないのでわかりませんが、生きていれば足が痛い事も、病気になることもあります。悩みも沢山あります。しかしそれは、生きている証だと思えます。死ぬとそうした痛みもないだろうし、悩みもないでしょうけれど、生きているからこそ足も痛いのです。嬉しくはないですが、それでいいのかなと思えます。

私の所に、子供達が沢山来てくれました。この年になって、町で若者とすれ違っても関わりはありませんでしたが、子供達は私に付き合ってくれて、私は感謝しています。そこで何をするのか、何も予定はありません。しかし、生命の尊厳という、命とは何かという事を子供達と一緒に考えていけたらと思ったのです。十三年間で命の本質が分かったかという、そうではないです。命なんていう、大きな哲学的な問題を解明出来るはずがありません。

今から二十数年前になりますが、私はある養護学校を訪問する事がありました。その校長に、今日一日みせて下さいと言ってみせて頂きました。

養護学校というのは、小学部・中等部・高等部があります。体に障害を持った子供達が学んでいます。高等部の三年生を見ましたが、そのクラスは三人の男子生徒がおり、重度の筋ジストロフィーという病気を持っていました。筋ジストロフィーという病気は、年齢と共に全身の筋肉が萎え衰えていく病気です。治療法はありません。その校長さんは「あの子達が二十五歳まで生きてくれたら嬉しいのだけ」と、そう言われました。生徒達も、自分達の寿命を知っているようでした。それは誰も言わなくても、自分の先輩達が二十歳を過ぎた頃から一人、二人と亡くなっていくのを見ているからです。

三時間目に、トレーニングの授業を見ました。三人の生徒達は卓球台のような大きな台にあげてもらい、二人ずつ先生がついて、手を曲げ、足をひねり、体をよじって可哀想

なようなトレーニングをしていました。生徒達は、あまりにも厳しいトレーニングで時々大きな声を上げたり、目に涙をためている子もいました。しかし、先生方はわめこうが決して手をゆるめる事をしませんでした。あの生徒達のトレーニングは、私達の場合とは意味が違います。我々の場合は、もっとゴルフが上手になりたい、筋力をつけたいなど、希望に溢れたものです。あの生徒達のトレーニングは、日に日に目に見えて衰えていく筋肉の力、放っておけばついには呼吸をする力も衰えて、死にます。それを一分でも一秒でも衰えを遅らせる事を出来ないかという、必死のトレーニングでありました。

昼、校長室で食事をしていると、三人の生徒のうち一人のお母さんが学校にみえました。そして午後の数学の授業を、私と一緒に見て行きました。三人の生徒は、椅子にかけている事が出来ないのでしょうか。白いさらしの布で、車椅子の背もたれに体を四重五重にくくりつけて崩れないよう、授業に出ていました。鉛筆もしっかり持つ事が出来ずに授業を受けていました。三十分経った時に、お母さんがいるという安心感があったのか、息子である生徒が鉛筆を床に投げました。私はびっくりしましたが、私達でさえ三十分もメモしていれば疲れます。ましてや、握力がない手で書いていけば疲れるだろう。うまく書こうと思っても書けないもどかしさのために、そのような行為をしたのだらうと思えました。けれど、その彼のお母さんは我が息子の前に駆け寄り、妥協を許さない声で叱責しました。「何するの、授業でしょ。しっかりしなさい。」そう叱った後、床に落ちた鉛筆を拾って息子に手渡すと、息子は黙って授業を続けました。



放課後、私は三人と話す事が出来ました。その学校は、病院のすぐ横に建ててありました。何かあれば、すぐ対応出来るようにという事でした。三人は、病院の一室にベッドを並べて、そこで一緒にいました。三年生ですから、卒業してどうするのか聞きましたら、一人は「僕はここに残って、後輩の面倒をみようと思います。」と言いました。二人の生徒は、「僕は、福祉の仕事をしたい。だから今、大学の通信の勉強をしているのです。」そう答えました。あと生きていても五年か六年、もっと早いかもしれません。その生徒達のその声は、暗さなんかひとつも感じさせない爽やかな声で、私に話しかけてくれました。その学校から家に帰る車の中で、長いさらしの布や、大きな声で「痛い」

と言った生徒の顔や、鉛筆を持っていた手など、そういう今日一日の様々な事が私に蘇ってきます。しかし考えていく中で、ひとつの疑問がありました。私ならどうなのか。自分の息子がその病気である事を知った時、私ならどうするだろう。たぶん私なら、もがくだろう。そして苦しんだあげく、何ともしようがないという事が分かれば、わずかな命、食べたいと言う物は何でも食べさせ、欲しいと言えばどんなに借金をしてでも買って来て与え、見たいと言えば外国でもどこでも連れて行って見せるはずだ。しかしあのお母さんは学校に預けて、たまたま来て見たあの些細な事に対して、厳しく叱った。何故か。その事が疑問でした。けれども私は色々な事をお母さんから聞いた訳ではないですが、考えていく中でひとつの事に思い至りました。あのお母さんは、自分の息子が病気である事を知った時に、どれほど嘆き悲しんだか計り知れません。そして、なぜうちの息子だけと、神や仏を恨んだかもしれません。しかしもうどうしようもない病気だと知った時、あのお母さんは私と同じ様に食べたい物を食べさせ、欲しい物を与え、見せたい物を見せようと思ったに決まっています。けれども、苦しんで悩んだあげく、ひとつの事に思い至られたのではないかと思います。それは、人生という事です。私達の人生は、80年と言われています。もっと長くなったかもしれません。我が息子、25年。80年と25年、何が違うか、長さだけではないか。たぶんあのお母さんは、人生というのはいかに永らえるか、という事ではなく、いかにその質を生きるか。そこにかけられたのだと思います。そして、子供が福祉の仕事をしたい、後輩の面倒をみたい、といった目標をもっているとすれば、自分も一緒になってその目標を完遂するように努力していこうと思われたのではないか。

子供というのは病気であるという事で小さな事を見過ごす、もっと大きな事をします。それも仕方ないと見過ごす、もっと大きなミスをしてついには掲げている目標を見失ってしまうはめになります。あのお母さんはその事を知っていたから、あの些細な行為を厳しく叱ったのではないか。あの日のお母さんの叱責の声は、母親としての最大の愛ではないかと、私は思いました。二十数年前のあの生徒は、もういないはずです。しかしあのお母さんであれば、我が息子が生涯を終える最後のその時に、「立派な人生を生きたね。あなたの人生すごかったよ。」そう言ってあげられたのではないかと思います。

私が思ったように、食べたい物を食べさせ、欲しい物を与え、そういう事にとらわれていたら、子供亡き後においしい物を食べた時、「これもあの子に食べさせたかった、これも見せたかった、これも持たせたかった」と、後悔されるであります。しかし、子供の人生をまるごと生きたあのお母さんは何を食べても何を見ても、後悔は一つもないのではないかと思います。立派に生きたという思いだけがあるのではないのでしょうか。

私は今、あの生徒達と同じ様に毎日を真剣に生きているのかと問われた時、私はまだ明日生きていくという前提のもとに、今ここにおります。1分1秒を大事に生きていた生徒達に対して、恥ずかしい思いがします。

私はある時、ふと思った事があります。「過去に帰れず、

今は留まらず、未来はまだない。」過去は絶対に介入できません。今だと言っても、もう1秒前はすでに過去です。中には過去を後悔して、今に不満を持って、まだない未来に対して悩む人もいるでしょう。そういう生き方は虚しいです。私は過去をバネにして、未来に希望を持って、そして今を一生懸命生きる事こそ、人としての生き方としてふさわしいと思います。

チャップリンは、人生は夢と希望とわずかなお金。生きていく為には、食べていくお金がいります。けれど、それよりもっと大事な事は、人間いくつになっても夢と希望を持つ事だ。夢と希望さえあれば、どんな厳しい状況にあっても乗り越えていく事が出来るのだ。その事をチャップリンは教えてくれました。

また、二十六歳で亡くなられましたが、金子みすずさんという昭和初期の童謡詩人がみえます。みすずさんは、こんな詩を読んでいます。「青い空の底深く、海の小石のそのように、昼のお星は目に見えぬ。見えぬけどもあるんだよ。見えぬ物でもあるんだよ。」と、こんな事を言っています。私達の命は、目で見えません。人間の命というのは、肉体と精神の二つで成り立っていると私は思うのです。平成十年位に、脳死法が国会を通りました。脳死とは何か。呼吸をしています。心臓は動いています。体は温もりがあります。けれども、脳波が停止した事でその時点で、人の死と認定するのです。心臓が動いていて、呼吸をしていて、温もりがあっても、脳波が停止するのです。脳波が停止という事は、喜びも悲しみも苦痛も何も感じなくなった時、つまり心が消滅した時をもって、人の死とするという法です。脳波が停止したと言われれば、臓器移植が可能になります。温もりがあっても、心臓が動いていても、脳死だと認定されれば、臓器移植ができるようになったのです。命の本質は何かと言ったら、もちろん肉体がなければ生きられないが、心こそがその人の一番大事なものであるのです。今、空を見上げて星は見えません。太陽の光が強すぎて、見えないだけです。しかし、大空には沢山の星が今もあるのです。金子みすずさんが言っている通りだと思います。私達は、目に見えるスタイルや健康などの、目に見える肉体の栄養を考えます。しかし、目にみえない心の健康はどうなのでしょう。私も、若い人達に特に心の栄養を与える必要があると思えてなりません。命というもの、これは永遠の命題です。

かけがえのない命、どうせ生きるのなら楽しく嬉しく生きていきたいと思うものです。

私は、この高山で育ててもらいました。私にとって高山は、心の故郷として最後の瞬間まで忘れる事の出来ない所です。上川原町で生まれ、住んでいました。そこであの大自然は、心投げた時、落ち込んだ時、山を歩きました。その時に、嬉しい時も悲しい時も高山の山々、木々達は私を受け入れてくれました。高山の生き物達は、私に命というものへの尊厳を教えてくれました。そして、高山の人達の優しさを、身をもって感じました。

曇屋さんの前を通った時、曇というのはいかに作るのが、ただ敷くだけではなく飾りになるのだ、そして何十年も使う物だから精魂込めて丈夫に作らなきゃいけないのだと、一時間程教えてくれました。高山の人の人情を、ひしひし

と感じました。友達と畑のトマトを採って食べた事があります。通りすがりのおじさんに、「一生懸命作った人があるんだ！」と叱られた事があります。そうやって高山の人は、私に善悪を知らないうちに教えてくれました。そして、高山の文化、伝統、工夫する事の大切さを知りました。時々、朝市へ行くと「今高山は素晴らしい立派な町になりました」と、おばさん達が話しています。私は言葉の中に、高山というものの全てを、これが私の故郷だと感じました。白川博士も高山で育ったからこそ、ノーベル賞を得られたのではないかと思います。あの方は、プラスチックに電気を通そうと考え、研究に成功されました。今、様々なものに白川博士の機能が生かされて世界に貢献しておられます。これは全部、高山が白川さんを育てて下さったのです。高山という素晴らしい町で、この中で何も言わなくても子供達は感じます。

例えば感ずるという事は、素晴らしい事だと思います。いちいち言わなくても、いろんな事を感じとります。

砂糖は甘いですが、その甘いという事を説明してみてください。そう言われると困ってしまいます。私も解が見つからず、金田一先生の国語辞書を引きました。先生は「甘い」という所に、砂糖の味と書いていました。こんな事は甘い事の説明ではありません。「辛い」という所は、食塩又は唐辛子の味と書いてありました。国語学者でもそうなのです。

世の中には、言葉や文章では表現出来ない事が沢山あります。それは感ずるよりしょうがないと、私は思ったのです。高山に住む子供達は、いろんな場面で高山の素晴らしい物を沢山感じて成長してくれると、そう思っています。

私は、明治大学のラグビーが好きです。そこの監督は、今の明治大学ラグビー部の基礎を作られたのです。その人が学生達に言った事は、ただ一言です。それが今も明治大学の部訓になっているそうです。ただ一言、「前へ」と。その事を教えました。その「前へ」というのが、ラグビー部

の部訓になっています。

例えば、つぶされても倒されても、ボールを1ミリでも5センチでも前へ出せと。ボールを前へ出す事で、ゴールはその分近付きます。そう教えられました。学生達は卒業してからも、監督の「前へ」という言葉を胸に、どんな厳しい状況におかれても、一步前に踏み出す事をしながら、社会に貢献してみえます。

私も、前へ一步でも進めたらいいなと、思っております。



お誕生日を祝して

## < 6 月のお祝い >

### ☆ 会員誕生日 ☆

田中 雅昭	S 3 2 年	6 月 2 0 日
谷腰 康夫	S 2 3 年	6 月 2 3 日
津田 久嗣	S 3 5 年	6 月 2 5 日

### ☆ 夫人誕生日 ☆

高木 純	和代	6 月 2 日
新宮 一郎	智子	6 月 1 7 日
周 信夫	真奈美	6 月 2 5 日

### ☆ 結婚記念日 ☆

田中 雅昭	S 5 9 年	6 月 2 日
中田 一男	S 4 7 年	6 月 3 日
仲谷 政美	S 4 4 年	6 月 2 6 日

# おめでとうございます

## < ニコニコ BOX >

本日の講師 松井弓夫様 遠い所からようこそおいで下さいました。会員一同歓迎申し上げます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。 **理事役員一同**

本年度最後の講師例会にふさわしい方に遠方よりお越し下さいましてありがとうございます。中京高校出身の中川君が7年目でホームランを打ちました。高校3年生の時書いた、へたくそなサインを見ながら「がんばれよ」とエールを送りました。 **橋本 修**

お陰様で、内孫と外孫が誕生しました。命を伝えていく事が出来、感謝しています。また、6月2日に社長を交代しました。これで、タイガーウッズと同じ病気(首痛)の治療に専念します。 **劔田 広喜**

松井先生のご来訪を歓迎申し上げます。今後もお体を大事にたくさんの子供たちに夢を与えて下さい。

追伸、はぐるま会優勝しました。 **平林 英一**

先日、家内の誕生日にお花を頂き、誕生日を思い出すことが出来ました。ありがとうございます。最近、運があります。はぐるま会、平林さんと岩本さんの活躍で馬GET!感謝の気持ちをニコニコへ。 **高木 純**

昨日のはぐるま会で賞金を頂きましたので、ニコニコへ。 **岩本 正樹**

昨日、26回目の結婚記念日にケーキをありがとうございました。 **田中 雅昭**

結婚記念日にケーキをありがとうございました。 **中田 一男**

本日 急用が生じ欠席します。 **岡崎 壮男**

21年度最後の月ですので、心残りの無いようにニコニコにご協力ください。 **三枝 祥一**